

平成26年度

芸術文化振興基金 文化芸術振興費補助金 助成事業事例集



独立行政法人 日本芸術文化振興会

目次



芸術文化振興基金助成事業

助成対象者インタビュー

劇団チョコレートケーキ

舞台芸術等の創造普及活動

- 1 音楽**
第 35 回草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル 公益社団法人関信越音楽協会
- 2 音楽**
ニッセイ名作シリーズ ニッセイ名作鑑賞教室 2014 / NISSAY OPERA2014
オペラ「アイナダマール（涙の泉）」 公益社団法人ニッセイ文化振興財団
- 3 舞踊**
Co. 山田うん 新作 2014 一般社団法人 Co. 山田うん
- 4 演劇**
てがみ座 第 10 回公演『汽水域』 てがみ座
- 5 演劇**
地獄八景亡者戯 II じんたろうと眠りの竜の巻 株式会社人形劇団むすび座
- 6 伝統芸能の公開活動**
若手囃子演奏会 若獅子会 若獅子会
- 7 美術の創造普及活動**
ながれやまミュージアム 2014 夏休みだけのとくべつな exhibition 流山文化のまちづくり実行委員会
- 8 多分野共同等芸術創造活動**
Eenen 延年 vol.7 身体で遊ぼう 狂言 vs フレンチ・バーレスク・コメディ Atelier OGA.
- 9 多分野共同等芸術創造活動**
「赤を見る / Seeing Red」 一般社団法人Kinsei R&D

国内映画祭等の活動

- 10 国内映画祭**
あいち国際女性映画祭 2014 公益財団法人あいち男女共同参画財団
- 11 日本映画上映活動**
映画タイムマシン 公益財団法人川崎市文化財団（川崎市アートセンター）

地域の文化振興等の活動

- 12 地域文化施設公演・展示活動（文化会館公演活動）**
たからづか能 公益財団法人宝塚市文化財団（宝塚ソリオホール）
- 13 地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示活動）**
「コレクション・クッキング
近くを視ること／遠くに想いを馳せること—対話と創造」 福島県立美術館
- 14 アマチュア等の文化団体活動**
第 11 回里山アート展 特定非営利活動法人コスモ夢舞台

- | | | |
|----|---|------------------|
| 15 | アマチュア等の文化団体活動
高知コンサートグループ創立 50 周年記念演奏会 | 高知コンサートグループ |
| 16 | 歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動
フィールドワーク桐生プロジェクト | ファッションタウン桐生推進協議会 |
| 17 | 民俗文化財の保存活用活動
第 42 回相模人形芝居大会 | 相模人形芝居連合会 |
| 18 | 伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動
クテ打組紐技法の継承活動—講習会の実施 | クテ打組紐技法研究会 |



文化芸術振興費補助金助成事業

トップレベルの舞台芸術創造事業

- | | | |
|----|--------------------------------------|------------------|
| 19 | 音楽
山形交響楽団 定期演奏会 (第 236 回～第 243 回) | 公益社団法人山形交響楽協会 |
| 20 | 舞踊
TOKYO CITY BALLET LIVE 2015 | 一般社団法人東京シティ・バレエ団 |
| 21 | 演劇
penalty killing | 風琴工房 |
| 22 | 伝統芸能
第 12 回 ユネスコ記念能 | 公益社団法人能楽協会 |
| 23 | 大衆芸能
第 45 回 漫才大会 | 一般社団法人漫才協会 |

映画製作への支援

- | | | |
|----|--------------------------------|------------------|
| 24 | 劇映画
舞妓はレディ | 株式会社アルタミラピクチャーズ |
| 25 | 記録映画
妻の病 —レビー小体型認知症— | 有限会社いせフィルム |
| 26 | アニメーション映画 長編
花とアリス殺人事件 | 株式会社スティーブンスティーブン |
| 27 | アニメーション映画 短編
Birth —つむぐいのち— | CHILD POKKE |

参考 芸術文化振興基金による助成

文化芸術振興費補助金による助成

日本版アーツカウンシルの試行的取組について

手探りからのスタート、はじめて助成を受けた体験を振り返る。

助成金を利用したことがない人にとって、応募までの手順や採択後の書類作成、基金の担当者との関係など、不安なことは多いと思います。

そこで、平成26年度の芸術文化振興基金助成事業に初めて応募し、現代舞台芸術創造普及活動（演劇）の助成を受けた、劇団チョコレートケーキの日澤雄介さんと浅井伸治さんに、助成制度を活用した体験を語っていただきました。

プロフィール

日澤雄介（ひさわ ゆうすけ）1976年生まれ。
劇団チョコレートケーキ主宰・演出。

浅井伸治（あさい しんじ）1980年生まれ。
劇団チョコレートケーキ所属・俳優。助成の事務手続きなどを担当。



▲浅井伸治（写真左）／日澤雄介（写真右）

活動概要

劇団チョコレートケーキ

2000年に駒澤大学OBを中心として結成された劇団。あさま山荘事件やサラエヴォ事件など社会的な事象をモチーフに、独特の世界観をもつ作品を創作。第21回読売演劇大賞選考委員特別賞（『治天ノ君』）、第49回紀伊國屋演劇賞団体賞をはじめ、数々の演劇賞を受賞。
URL: <http://www.geki-choco.com/>

助成実績

平成26年度、芸術文化振興基金より「サラエヴォの黒い手」の公演に対し助成金の交付を受ける。本作は、サラエヴォ事件を題材とした創作初演作品。史実をそのままの形で再現するのではなく、当時の人間の息づかいを色濃く表出させることに力点を置いた演出が行われた。

平成26年6月11日から15日まで、駅前劇場（東京都世田谷区）にて9回上演。

平成27年度も同様のカテゴリーにて採択されている。

応募 ▶手探りで情報収集

—— 劇団チョコレートケーキさんは、助成制度を利用されたのは、今回が初めてだったかと思いました。まずは助成金に応募してみようと思われたきっかけを教えてください。

日澤雄介（以下、日澤） 助成金というものがあるらしい、ということはぼんやりとは知っていました。ただ、どんな助成団体があるのか、どんな基準で選ばれているのかは全然わかりませんでした。日頃から資金面では苦労する部分がありましたので、応募してみたいとは感じていました。

芸術文化振興基金については、チラシやポスターなどでロゴマークを目にする機会がありましたので、そういうものがあるのだなという感じで知っていました。私たちのような劇団が、果たして応募できるのか不安はありましたが、社会的なテーマを扱った演劇

をやっているのが公共性があると感じていましたし、2014年に読売演劇大賞の選考委員特別賞という大きな賞をいただきまして、それでそろそろ応募しても大丈夫かなと（笑）。

—— 応募しようと思われてから、具体的にはどんなふうにかねましたか。

日澤 まずは、助成金についてももう少し詳しく知らなくてはと思いついて、浅井を助成金担当者に指名して、調べてもらいました。

浅井伸治（以下、浅井） なにもわからない状態だったので、最初のうちは、知り合いの団体に教えてもらいました。それぞれの助成金で応募の時期が決まっていること、ねらいや応募の詳細なども、だんだんわかってきました。

芸術文化振興基金では説明会が行われているという

ことを知り、まずはそちらに出向いてみました。講義形式で概略説明があり、その後に個別相談ができるようになっていて、そこで具体的な相談にのってもらいました。個別相談でずいぶん疑問が解消されました。

—— 平成26年度の募集までは、全体説明とあわせて個別相談を行っていましたが、現在はもう少しじっくりご相談に乗れるように、個別相談を受ける期間を設けて、面談をするようにしています。また、Webサイトに募集説明動画を掲載して、応募の概要についてはいつでもご覧いただけるようにしました。

応募書類を作成する際は、戸惑いはありませんでしたか。

浅井 書類のほうは、僕自身はとりまとめ役という感じで、それぞれの項目について劇団のなかで書くのに適している人に分担してもらいました。ですので、わりとスムーズだったと思います。

助成期間中

▶ わからないことはすぐに相談

—— 採択が決まってからは、どんなことが不安でしたか。

日澤 予算の変更などは、ちょっと不安でした。演劇では、やりはじめてみると変更が出てくることも多くあります。要望時にこのくらいかかるかなと思って書いていた金額より、多くなったり、少なくなったり。そういうズレが出たときに、どうしたらいいのか心配でした。

浅井 そもそも、そういうときに基金の担当者の方に相談していいものかどうか、そのあたりもわかりませんでした。でも、電話やメールなどでとてもよく相談にのっていただきました。

日澤 なにかわからないことがあったら、浅井が「じゃあ、聞いてみる」と言って、すぐに基金へ連絡をとっていました。こんなにいろいろ相談にのってもらえるとは思っていませんでした。

—— 基金の担当としても、こまめに連絡をもらえるほうが、どんな動きをされているのかよくわかるのでありがたいんです。担当している団体さんが、助成金を使ってよい成果を出されたり、成長されたりしていく様子を拝見できるのは、私たちにとってもうれしいことなのです。

助成金をどのように使い、どんな成果がありましたか。

日澤 まず、広報にお金をかけました。大きな効果が期待できる有料の宣伝ツールがあるのですが、ふだんはなかなか使えません。そういうものも使うことができました。

また、知名度のある俳優をキャスティングすることにも資金を使いました。演劇の質を高めるとともに、集客にも効果を発揮します。それから稽古場。私たちの劇団は自前の稽古場をもっていないので、稽古場の確保をすることが実はとても大事なんです。助成金を得たことで、実際に公演で使う舞台に近い広さの稽古場を借りることができました。助成金のおかげで、クオ

リティの高い作品をつくることができ、たくさんのお客様に見ていただくことができました。

—— 助成を受けて、資金面以外で役立ったことがあれば、教えてください。

日澤 応募書類を書き上げていくなかで、自分たちの劇団がやってきたこと、めざしていることなどを整理するよい機会となりました。そういう意味で、社会的な立ち位置を確認できたような気がします。

今後の展望

▶ 自立に向けて

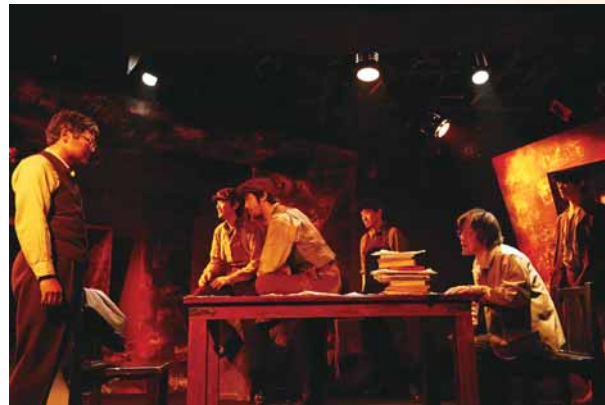
—— 助成を受けながら活動を行ってみて、どんな課題がみえてきましたか。

日澤 助成金があると非常に助かりますし、この基金では継続して助成を受けられますので、資金がテコとなって成長する期間は、ぜひ助成金を活用したいと思っています。ただ、いつまでも助成金に頼るような体質ではいけないなと感じています。

—— そうですね。たとえばステップアップするために、法人格をとるとか、文化芸術振興費補助金のトップレベルの舞台芸術創造事業のほうを目指すなど、長期戦略を立てることも大事だと思います。

日澤 私たちはまだまだ発展途上で、目指している形には遠いところにあります。これからもいい作品をつくって、多くの方に舞台を見ていただけるように努力していきたいと思っています。

—— これからの活躍を楽しみにしています。今日はありがとうございました。



▲「サラエヴォの黒い手」(撮影：池村隆司)



▲「サラエヴォの黒い手」(撮影：池村隆司)

1 第 35 回 草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル

公益社団法人関信越音楽協会

助成金額 9,500 千円

活動概要

関信越音楽協会は、関信越地方の音楽の振興をはかり、日本の音楽文化の発展に寄与する目的で、昭和 52 年に設立された。

草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバルは、1980 年に開始し、日本で最初の音楽アカデミー（講習会）とフェスティバル（演奏会）から成る音楽祭。2010 年からは、作曲家の西村朗氏が音楽監督に就任している。

第 35 回は、2014 年 8 月に草津音楽の森国際コンサートホールをメイン会場にコンサートが行われ、アカデミーとともに 14 日間開催。欧米の音楽大学や交響楽団で活躍する世界第一級の音楽家を講師として招聘し、日本および近隣諸国の若い音楽家達にマスタークラスの個人レッスンと室内楽の合奏訓練を行った。また、招聘した教授陣による一般公開コンサートも開催。

全体のテーマをドイツ後期ロマン派の最後を飾る大作曲家 R. シュトラウスに設定し、日本初演の作品を多くとりあげた。また国際的に著名なアルディッチ弦楽四重奏団を招聘したことも大きなトピックス。

助成を受けて

当事業はアカデミー（講習会）とフェスティバル（演奏会）の 2 つの要素から構成される事業です。演奏会だけでなく、講習会を併設していることに大きな意義があり、講習会に参加してプロになった方が後にアーティストとして演奏会に出演を果たすなど良い循環が生まれています。また、講習会では受講者が勉強する様子を一般の音楽愛好家に公開。演奏会では受講生にリハーサルを鑑賞する機会を与えており、プロが演奏会に向き合う様子やステージでの振る舞い方などを間近で見ってもらうなどして、実践的な学びの場づくりに積極的につとめています。

しかし、講習会を抱き合わせていることで慢性的な資金不足に悩まされています。これによって、運営に関わるスタッフの人件費を十分に確保できず、繁忙期には臨時雇用のスタッフに頼らざるをえず、人材の育成・確保に毎年苦慮しています。

古典から現代までの音楽を幅広く紹介する興味深いプログラムや質の高い演奏を提供することは、興行収入のみでは実現しづらく、助成という大きな支えがあってこそ可能だと感じています。当事業ではリピーターのお客様も多くなっていますが、一方でお客様の高齢化も実感しています。若い世代のお客様が増えていくよう、今後は子どものためのコンサートなどにも積極的に取り組んでいきたいと考えています。



▲リハーサルの様子



▲第 35 回草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル

公益社団法人関信越音楽協会

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町大字草津字白根国有林 54 林班地内

Tel: 0279-88-8118 URL: <http://kusa2.jp/>

2 ニッセイ名作シリーズ ニッセイ名作鑑賞教室 2014/ NISSAY OPERA 2014 オペラ「アイナダマール(涙の泉)」

公益社団法人ニッセイ文化振興財団

助成金額 9,000千円

活動概要

ニッセイ文化振興財団は、優れた舞台芸術を提供することで国民の教養を高め、芸術文化の振興に寄与することを目的として1973年に設立。日生劇場を拠点に、国内外の優れた作品を低廉な料金で上演。舞台芸術を支える俳優・歌手・演出家・舞台技術者の育成にも熱心に取り組んでいる。

「ニッセイ名作シリーズ ニッセイ名作鑑賞教室」は、青少年のオペラ鑑賞の機会を広げるために2014年より開始。オペラ「アイナダマール(涙の泉)」(全3景、原語スペイン語上演・日本語字幕付き)を上演した。物語は、スペイン内戦で民衆が独裁者から自由を得るためにいかに戦ったかを老女優が若い娘に語る回想形式で進行する。

「アイナダマール(涙の泉)」は、現代オペラの中でも、新たな方向性を示す傑作として名高く、スペインやアメリカなど世界各国で上演。日本では今回が初演。学校公演で3回、一般公演で2回、日生劇場にて上演した。



▲オペラ「アイナダマール(涙の泉)」(撮影：三枝近志)



▲オペラ「アイナダマール(涙の泉)」(撮影：三枝近志)

助成を受けて

青少年のためのオペラ普及については、1979年より中学校・高校の校外学習として「日生劇場オペラ教室」を毎年実施してきました。2014年からは、オペラ鑑賞の機会をより広げるために、「ニッセイ名作シリーズ ニッセイ名作鑑賞教室」を開始。学校公演は無料、一般公演も初心者にも求めやすい低料金に設定しました。学校公演については、鑑賞学校の募集範囲を東京近郊だけではなく、栃木、群馬、山梨などの関東全域に広げ、募集の告知を根気強く行いました。無料ということもあり、これまでよりも公立校の応募が増えました。

公演をより深く楽しんでもらうための工夫として、鑑賞を希望する学校に独自に作成したDVDを事前に配布したほか、学校へ赴きDVDを使ってオペラ講習会を行いました。学校関係者からは動画があると生徒に指導しやすいと好評でした。

オペラを作り上げるという点では、助成金をいただいたおかげで、イタリア製の衣裳やイタリア人振付家を海外から招聘することが可能となり、演出意図を損なわない舞台を制作することができました。一般公演の集客にはいつも苦戦していますが、今回は低廉な料金設定のおかげで、チケット販売も良好でした。

オペラ公演をわかりやすく中高生に見せる点については、もう少し工夫をする必要があると感じています。今後は、活動範囲を東京だけでなく全国規模に広げ、より多くの方がオペラに親しめるよう、継続的に活動をしていきたいと思えます。

公益社団法人ニッセイ文化振興財団

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-1-1

Tel: 03-3503-3122 URL: <http://www.nissaytheatre.or.jp>

3 Co. 山田うん 新作 2014

一般社団法人 Co. 山田うん

助成金額 1,800 千円

活動概要

一般社団法人 Co. 山田うんは、振付家・ダンサーの山田うんを中心としたダンス・カンパニー。独自の表現で舞台芸術の発展に寄与することを目的として 2002 年に設立され、カンパニー公演、ソロ活動、コラボレーション、ワークショップなどを行っている。

作品ごとにオーディションを行い、将来性のある若手ダンサーを育成したり、ある地域に一定期間滞在し、受け入れ側の市民と共同で作品を創作する地域密着型プロジェクトに取り組んだりするなど、多様な活動を行っている。

2014 年はダンス芸術文化の発信、若手新進ダンサーの育成などを目的とし、「ワン◆ピース 2014」(約 45 分 新演出 出演者 7 名)、「十三夜」(約 45 分 創作初演 出演者 13 名)の 2 作品をシアターラム (東京都世田谷区) にて全 4 回上演した。



▲「十三夜」(撮影：羽鳥直志)

助成を受けて

2014 年の公演では、振付家・ダンサーの山田うんが初めて自らが出演せず、振付演出に専念しました。これによって、作品のクオリティが底上げされ、若手ダンサーも大きく成長しました。また、初めて外部の音楽家にオリジナル曲を委嘱しましたが、その共同制作の作業は貴重な経験となり、音楽家とのコラボレーションの可能性や手法をつきつめて考えるよい機会となりました。

観客動員も好調で、照明、衣装、舞台美術、音楽、振付の総合演出効果に対する満足度は極めて高いものでした。特に「十三夜」は、群舞のクオリティのレベルアップを評価する声が多く、平成 26 年度の芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞しました。

十数人の群舞による作品を創作していますが、専属の稽古場をもっていないため、その都度、広い稽古場を借りなくてはなりません。また人数の多い公演でのツアーや新作創作活動などにより、運営の資金繰りにはいつも苦労しています。このたびの公演では助成金をいただきましたが、それでもオリジナルデザインによる衣装や大道具製作の費用捻出には苦心しました。将来的には、このたびの上演作をレパートリー作品として再演することで、全体予算における舞台経費を減らし、文芸費の割合を増やしていきたいと考えています。

今後は、海外活動を増やすこと (共同制作、レパートリー作品の再演など)、レパートリー作品の再演を充実させること、音楽や伝統芸能などの他分野との共同制作、共演などに取り組んできたいと思えます。

一般社団法人 Co. 山田うん

〒165-0022 東京都中野区江古田 4-21-16

Tel: 080-9640-5361 URL: <http://yamadaun.jp/>

4 てがみ座 第10回公演『汽水域』

てがみ座

助成金額 2,000 千円

活動概要

てがみ座は、劇作家の長田育恵による創作戯曲を上演する現代演劇の団体。2008年に設立。豊かなドラマと心の機微を捉える台詞に重点をおき、上演作品に応じて、演出家、出演者を集め、多彩な才能とコラボレートするスタイルをとっている。

上演作品の『汽水域』は、今回が初演。シアタートラム（東京都世田谷区）にて10回、愛知県豊橋市の穂の国とよはし芸術劇場 PLAT で3回上演された。タイトルにもなっている「汽水域」は海水と淡水がまじりあう場所という意味。物語の主人公は、フィリピンに住む日系二世の父親と三世になる息子たち。フィリピン河川敷のスラム、横浜市の日雇い労働者街を舞台としてコミュニティの崩壊と個人の魂の再生を描いている。



▲てがみ座 第10回公演「汽水域」（撮影：伊藤雅章）



▲てがみ座 第10回公演「汽水域」（撮影：伊藤雅章）

助成を受けて

私たちの劇団は、発足して5年目になります。活動をするにあたり、人材、資金ともに不足気味でしたので助成金の応募を検討していました。まだ法人化もできていない状態ですが、任意団体でも応募が可能で、個人ではなく公演全体に対する助成でしたのでこちらに申請をしました。

本作品は、当初から東京に加え豊橋でも上演する予定でした。少しでも観客を増やしたいと思い、事前に豊橋へ取材に出かけ、その際に、ニホンウナギが日本から3,000km離れたマリアナ諸島西方で生まれ、潮流を漂いながらフィリピン沖で黒潮に乗り、日本の河川を目指すことを伺いました。この鰻の話から着想を得て、日本とアジアのつながりを海流というものを通して見渡すという物語を創作しました。実際にフィリピンにも取材に行き、上演のためのスタッフ、キャストを集めました。

作品は高く評価され、反響が大きかったこともあり、NHKでも放映されました。また、作品創作に関わっていただいた豊橋やフィリピンの関係者の方々との交流も大きな財産となりました。

一方、観客動員については芳しくなく、特に豊橋での公演は苦戦しました。良い作品をつくれれば観客も増えると感じて活動しておりますが、劇団の運営やよりよい創作のためにも、もう少し広報を工夫していかなければならないと感じています。

これまで、物語を通して戦後史を俯瞰し現代日本の座標をとらえることをねらいとしてきましたが、その活動には区切りがついたように感じています。今後は演劇の根本に立ち返り、人間の関係性からあぶり出されるドラマと時代性を描く試みへと移行したいと思っています。

てがみ座

URL: <http://tegamiza.net>

5 地獄八景亡者戯Ⅱ じんたろうと眠りの竜の巻

株式会社人形劇団むすび座

助成金額 1,800千円

活動概要

人形劇団むすび座は、1967年に東海地方で初のプロの人形劇団として名古屋市に発足。以来、「子どもと子どもをむすびます」「人と人とをむすびます」を合言葉に、子どもたちの生活に近い場で人形劇を上演している。

現在、劇団員は約40名。1989年のアメリカ、カナダの招聘公演をはじめ、中国、韓国などでも活動を行う。年間の公演回数は、1,000回以上。

「地獄八景亡者戯Ⅱ じんたろうと眠りの竜の巻」は、戦争をテーマとした小学生向けの約1時間半の作品。前作「地獄八景亡者戯 じんたろうとつくも神の巻」が好評であったため、その続編として企画された。内容は、主人公のじんたろうが戦争中の世界にタイムスリップし、戦時中のさまざまな出来事を体験しながらヒトやモノを救い出すために奮闘するというファンタジー。2015年3月に滋賀県東近江市の東近江市八日市文化芸術会館で1回上演。



▲「地獄八景亡者戯Ⅱ じんたろうと眠りの竜の巻」



▲「地獄八景亡者戯Ⅱ じんたろうと眠りの竜の巻」

助成を受けて

私たちの主な活動拠点は東海三県（愛知県、岐阜県、三重県）ですが、今回は他の地域の子どもたちにも見てもらいたいと考えました。協力者を探したところ、滋賀県東近江市八日市文化芸術会館が名乗りをあげてくれたため、滋賀県で開催しました。当劇団の知名度のない地域で、採算の望めない公演であったため、助成金に応募しました。

平素は、幼稚園、保育園、小学校での公演を中心に活動していますが、近年、上演機会は減る傾向にあります。予算的な理由としては、市町村合併などで観劇予算が確保できなくなる、幼稚園、保育園では市直営から民間委託になったことで予算が確保できなくなるといったことがあげられます。また、小学校では授業数確保のため舞台鑑賞をやめるところがあったり、保育園の体制の変化によって1日2回公演が行えなくなったりしています。

上演機会が減ることで、劇団の経営も厳しくなっており、作品創造のための外部スタッフへの依頼をやめざるをえない状況にあります。

本公演では、戦争を次世代の子どもたちに語り継ぐというテーマに挑みましたが、助成金を受けたことで、愛知県の一流のスタッフに関わってもらいながら、作品創造に集中する時間を十分に確保できたため、上質で芸術性の高い舞台を創ることができました。子ども向けの事業でしたが、おもいがけなく大人のお客様にも多くご来場いただき、継続して行ってほしいなどの要望もあり、今後の活動の自信につながりました。この公演を足がかりに、滋賀県での事業を継続的に行っていきたいと思っています。また、公演だけでなく人形劇の講座の開催や、アマチュア人形劇サークルの養成などにも取り組みたいと考えています。

株式会社人形劇団むすび座

〒459-8001 愛知県名古屋市緑区大高町字川添 86

Tel: 052-623-2374 URL: <http://www.mc.ccnw.ne.jp/musubiza>

6 若手囃子演奏会 若獅子会

若獅子会

助成金額 200千円

活動概要

若獅子会は、伝統芸能の継承と発展、後進の育成および技能の向上、一般社会および青少年への普及を目的とし、邦楽の若手囃子演奏家により 2005 年に設立。翌年より中央区立日本橋公会堂（ホール愛称：日本橋劇場／東京都中央区）において演奏会活動を継続的に行っている。将来的には、日本国内だけではなく海外への普及も視野に入れている。

演奏会は、邦楽界の若手囃子演奏家が流派を超えて参加している。囃子演奏家が主軸となって演奏会を開催することは珍しい。

2014 年の演奏会では、邦楽の音楽ジャンルのひとつである長唄の古典作品と、創作初演の曲を披露。若獅子会の会員 9 名が出演し、二子玉川 KIWA（東京都世田谷区）で 2 回、日本橋劇場で 1 回、実施した。



▲若手囃子演奏会 若獅子会

助成を受けて

囃子演奏家は、日頃はひとりひとりが単独で活動していますが、若獅子会としての活動では、新しい曲をみんなで作るなど、平素ではできないことに挑戦しています。一般の邦楽囃子の会では、古典的な長唄の曲に合わせて演奏することが主ですが、この会では囃子で使われる楽器である太鼓、大鼓、小鼓、大太鼓、当たり鉦等を使って新しい曲をつくり、演奏会で発表しました。

新しい曲をつくる作業は、時間もかかる上、練習のためのスケジュール調整も大変ですが、異なるジャンルの方々と一緒にひとつのものをつくり上げる経験は貴重でした。創作活動や演奏会を通じて、会員の技術も向上し、学生や一般の方など多様なお客様に演奏を聴いていただくことができました。

若獅子会ができた当初はぶつかり合うことも多かったのですが、10 年を経た現在は、会員間に信頼感が生まれています。囃子のための新しい曲をつくるなど、挑戦的な試みを行うことで邦楽囃子というものを一部の愛好家だけでなく、広く一般の方々に身近に感じていただきたいと感じています。しかし、そのねらいは、まだ達成できていません。

今後も、こうした創作活動を続けていくことがまずは大切だと考えています。そして 100 年後に自分たちがつくった曲が古典作品になるようこれからも努力していきたいと思っています。

若獅子会

〒168-0081 東京都杉並区宮前 4-22-5

Tel: 080-7807-5965

7 ながれやまミュージアム 2014 夏休みだけのとくべつな exhibition

流山文化のまちづくり実行委員会

助成金額 300千円

活動概要

流山文化のまちづくり実行委員会は、千葉県流山市の文化の発展に寄与しているメンバーが集まり、「様々なジャンルの文化を身近に感じられるまちづくり」を目的として2009年に設立。ジャズなどの音楽、落語や漫才、現代アート、国際交流の4つの柱に沿った企画を立てている。

東日本大震災を機に、毎年夏休みに子供向けのアートイベントを実施しており、本企画はその4回目。被災地に関わりながら創作活動を続けている現代芸術家や写真家、版画家などさまざまなアーティストを招き、アートによって東日本大震災の被災地と流山市をつなぐこと、そして、いつ起こるかわからない地震について、子供たちとその家族に考えてもらうことをねらいとした。

2014年7月23日～8月31日に、流山市生涯学習センターにおいて展覧会を実施（展示期間、同センター内で場所を変えながら、計6回の展示を実施）。この期間中に5つのプログラムのワークショップを行った。



▲ジェイミ・ハンフリーズによるワークショップの様子



▲中島佑太によるワークショップの様子

助成を受けて

これまで、被災地の子供たちに現代アートを通じた創造活動ができる場の提供を目的として活動を実施してきました。このたびの展覧会では、これに加えて、被災地に入って活動を続けているアーティストによるプログラム提供という点に力を入れました。アーティストを選出した後は、被災の深刻さを伝えつつも、希望や楽しさを盛り込んだ内容になるよう、密に打ち合わせを行いました。アーティストのやりたいことと、私たちのねらいの間には差があることもあり、折り合いをつけるには苦労しました。

ワークショップでは、「継続」と「楽しさ」を重視し、子供たちの制作物やワークショップの様子を展示するなど、今後もやってみたいと思われるような工夫をしました。その結果、子供たちの反応はとてもよく、子供たちが描いた絵が被災地である福島県相馬市で展示され、そこの子供たちからお礼の手紙が来るなど、子供たち同士の新しいつながりが生まれました。これによって、子供たちが被災地の人々や震災について、理解を深めることができ、身近なものとして考えられるようになったと感じています。

こうした活動は、受益者負担でやっていけるようにすることが最終目的ですが、現在は助成金に頼らざるを得ない状況です。今後は運営面を見直しつつ、アートを通じて震災の悲惨さや地震への備えの大切さを子供たちに伝える活動を継続していきたいと思えます。

流山文化のまちづくり実行委員会

〒270-0153 千葉県流山市中110番地 流山市生涯学習センター内 事務局

Tel: 04-7150-7474

URL: <http://nagareyama-shougaigakushucenter.jp>

8 Eenen 延年 vol.7 身体で遊ぼう 狂言 vs フレンチ・バーレスク・コメディ

Atelier OGA.

助成金額 600 千円

活動概要

【異なる分野の芸術団体等が共同して行う公演・展示等活動】

アトリエ オガ. は、狂言（和泉流）の伝統を維持発展させ、伝統芸能の理解と普及に努めることを目的に、1997 年に設立された。和泉流の狂言師である小笠原匡が代表。

本公演は、フランスで発達した身体技法の「マイム」や「サーカス」からなる「フレンチ・バーレスク・コメディ」と、日本の伝統芸能である「狂言」をコラボレーションさせた異色の企画。両者の相違点をレクチャーとデモンストレーションで検証しながら紹介。両者がひとつの舞台に立ち、本公演のために創作された新しい作品を演じた。阪急梅田ホール（大阪市）にて 3 日間、6 回の公演を実施。



▲ Eenen 延年 vol.7 身体で遊ぼう
狂言 vs フレンチ・バーレスク・コメディ「ムスティック」

助成を受けて

フランスと日本で、それぞれ受け継がれてきた「フレンチ・バーレスク・コメディ」と「狂言」を組み合わせるといふこれまでにないコラボレーションに挑戦しました。全く新しい取組でしたが、根底となる芸術性や笑いについては共通するものがあり、うまく融合させることができました。

本公演は、これまで私たちが行ってきた公演と比べると劇場の客席数が多かったため、集客のために SNS を利用して積極的に告知したり、公演前にワークショップを行うなど広報活動にも力を入れました。

「フレンチ・バーレスク・コメディ」と「狂言」という前例のない組合せの公演ということもあり、来場の見込みは公演直前まで思わしくありませんでした。しかし、いざ公演がはじってみると、実際に鑑賞した人からの口コミが広がり、多くのお客さんが劇場に足を運んでくださいました。

海外とのやり取りは初めてでしたので、機材の運搬や電圧の違いなど、これまで経験したことがない事柄に対応しなければならないことも多くありました。また、作品の創作にあたっては、文化や習慣の違いなどを痛感しましたが、今後はそれを逆手にとって作品に反映させたいと思っています。

プログラムでは、子供や親子に楽しんでいただけるものを実施しました。また、いつもより交通アクセスのよい劇場で実施できたこともあり、幅広い年代の方々に鑑賞していただくことができました。ふだんは伝統的な芸術にあまり親しまれていない家族連れにも、新しい機会を提供できたように感じます。また、いつもはオーソドックスな狂言を楽しまれている方には、新しい狂言の見方を提案できたと感じています。

今後も、こうした活動を継続的に行いながらレベルアップさせ、国内のほかの地域への公演を広げるとともに、外国の芸能との協働も発展させていきたいと考えています。



▲ Eenen 延年 vol.7 身体で遊ぼう
狂言 vs フレンチ・バーレスク・コメディ「バスキュール」

Atelier OGA.

Tel: 06-6942-1577 URL: <http://www.atelier-oga.com>

9 「赤を見る / Seeing Red」

一般社団法人 Kinsei R&D

助成金額 2,300 千円

活動概要

【芸術家及び芸術家のグループが行う新しい芸術分野を切り開くような独創性に富んだ新作等の公演・展示等活動】

Kinsei R&D は、LED 照明を中心にさまざまなデジタル・デバイスを活かしたメディア・アートとパフォーマンスの振興をめざして活動している団体。2012年に設立し、コンピューターと身体表現を用いた教育普及活動なども行っている。

本公演では、Kinsei R&D 代表の藤本隆行と韓国を代表する振付家でダンサーでもあるチョン・ヨンドウの共同製作によるメディア・パフォーマンス作品「赤を見る / Seeing Red」(2011年発表)を改訂新作として発表した。

この作品は、進化心理学者のニコラス・ハンフリーの同名の書籍をベースとしたもので、「人間の意識とはなにか」という問いを、デジタルテクノロジーとダンスを軸に思考し、舞台化したもの。KAAT 神奈川芸術劇場(神奈川県横浜市)にて3日間、3回の公演を実施。



▲「赤を見る / Seeing Red」



▲「赤を見る / Seeing Red」

助成を受けて

本作品は、試演会を繰り返してきており、その集大成として今回の公演を行いました。美術家が新たに参加したことにより、空間設定をより明確にすることができました。また、新たな出演者も加わることで、これまでとは大きく変化した作品となりました。

意識とはなにか?どこからくるのか?という難解なテーマを掲げていますが、アーティストの思いだけで表現するのではなく、進化心理学者の著書から発想を得ることで、アーティストのひとりよがりではない、ある意味、社会全体の問題として捉えることができると考えています。さらにメディア、造形、サウンド、映像など多くのアーティストが集結することで、意識と向き合う方向性もそれぞれ違ったアプローチから議論できました。これにより多様な価値観を提示できたと感じています。

一方で、クオリティの高い作品を作り上げることができても、それが直接集客に結びつかないことも実感しています。資金不足と集客への不安をいつも抱えています。今回の公演では、長期にわたる稽古を集中的に行う必要がありましたが、キャスト、スタッフのスケジュール調整や長期にわたって稽古ができる場所の選定には苦労しました。また東京から離れた場所でのクリエイションになったため、美術の運搬などに予想以上の労力と資金がかかりました。

数年にわたり、同じテーマで作品を作ってきましたが、本公演でひとつの区切りがつかしました。しかし、今回新たに関わった美術家との共同作業はこれからも継続していきますし、意識について掘り下げることもまだまだできると感じています。

一般社団法人 Kinsei R&D

〒603-8312 京都府京都市北区紫野中粕野町 22-20 紫野スタジオ

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-34-18-213 ハイウッド内

Tel: 03-3320-7217 (ハイウッド)

10 あいち国際女性映画祭 2014

公益財団法人あいち男女共同参画財団

助成金額 2,500千円

活動概要

あいち男女共同参画財団は、男女共同参画社会の実現をめざすことを目的とした団体で、男女が性別にかかわらず、自立した人間として個性と能力を十分発揮することができるよう、社会のあらゆる分野における活動への参画を目指して活動を行っている。

あいち国際女性映画祭は、日本で唯一の国際女性映画祭で、1996年より毎年開催。映像文化を通じた女性の社会進出の支援をはじめ、男女共同参画や国際交流に関する理解を促進している。

19回目となる2014年は、ウィルあいち（愛知県名古屋市中区）において5日間、弥富市中央公民館ホール（愛知県弥富市）にて1日開催。合わせて29回の上映を行った。

上映作品は、女性監督による新作を中心に28本を選出。また監督やゲストによるトークイベントやシンポジウムなども実施した。

助成を受けて

国内で唯一の国際女性映画祭としての役割をどのように果たすべきか、いろいろ模索していますが、今回は初の試みとして国連広報センターとの連携企画を実施しました。アフリカのリベリアを平和に導いた女性たちの活躍を描いたドキュメンタリー映画『悪魔よ地獄へ帰れ』を上映。その後、国連広報センター所長を進行役として、国連地域開発センター所長や紛争地域で活動している写真家をゲストに招いてシンポジウムを開催し、映画を通して西アフリカ地域の紛争と女性たちの現状についてお話いただきました。

助成金をいただくことによって、国内外からシンポジウムやトークイベントのためのゲストを多数招聘することができました。また、ショートフィルム・コンペティションの準グランプリも1枠増やし、若手監督の育成と支援を行うことができました。

今回の映画祭を通じて、New York Cine Fest というアメリカの映画祭とのつながりができたことも大きな収穫のひとつです。これにより当映画祭のフィルム・コンペにノミネートされた監督に、海外で上映する機会を提供できるようになりました。

一方で課題もあります。これまで映画祭を19回実施していますが、知名度はまだ高くありません。また客層の中心は高齢層の女性で、なかなか若年層の男女に会場いただけいていません。限られた予算ではありますが、もっと効果的に広報活動を行わなくてはならないと感じています。



▲監督合同記者会見



▲ショートフィルム・コンペティション表彰式

公益財団法人あいち男女共同参画財団

〒461-0016 愛知県名古屋市中区上笠杉町1

Tel: 052-962-2512 URL: <http://www.aichi-dks.or.jp/>

11 映画タイムマシン

公益財団法人川崎市文化財団

助成金額 100千円

活動概要

川崎市文化財団は、神奈川県川崎市における文化芸術の創造を促進し、市民がいきいきと心豊かに暮らせるまちづくりに寄与することを目的として、1955年に設立された。

映画タイムマシンは、子どもを対象とした映画の上映活動で、映画というタイムマシンに乗って、さまざまな時代をのぞいてみようという企画。日本の古典映画の上映を通じて、子どもたちに日本固有の豊かな映画文化に触れてもらう機会を提供するとともに、子ども達に普遍的に愛される映画がなにかを聞き取り、今後企画されるべき上映会のためのリスト作りを行っている。

2014年の夏休み期間中の6日間に川崎市アートセンター（神奈川県川崎市）にて実施。日本のアニメーション史の萌芽を感じることでできる日本の戦前、戦後のアニメーションを上映した。短編19作品を、Aプログラム8作品、Bプログラム11作品に分けて上映した。また小学4年生から高校生を対象とした音楽ワークショップも行い、子どもが映像文化に興味をもつきっかけも提供した。



▲グループでの音作りの様子



▲作品発表後に講師からコメントをもらう模様

助成を受けて

若年層を対象にクラシックな映画を上映することは、ひとつの挑戦でした。そこで、子どもがアプローチしやすくするためにワークショップを開催することにしました。ワークショップでは、サイレント映画専門の伴奏ピアニストを講師にむかえました。まず講師が音楽をつけた無声映画を子どもたちに鑑賞してもらい、その後に子どもたちに音のない映像に音をつける作業をしてもらうというものです。

短時間のワークショップでしたが音楽を楽しみながら映像を分析し、子どもたちがはじめて会った仲間と独自の映画音楽を作り出すことができました。今回の活動を通じて、子どもには本物と出会う芸術体験が大切であるということを改めて感じました。本企画は長期的な視点にたって準備しようと心がけていましたが、講師やスタッフの選定を妥協しなかったことがワークショップを成功に導いたと感じています。

上映会では、親子または祖父母と孫という組合せで鑑賞する姿が多くみられ、家族のコミュニケーションをうながしている様子でした。古い映画であっても、良質の作品であれば、子どもたちの反応がよい、ということも貴重な発見でした。

近年は、デジタル化が進みフィルムの上映機会が減っています。できるだけフィルムを上映する技術や質を保っていきたいと思っていますが、上映機会が少ないため研鑽の機会が少ないのが悩みです。また、こうした企画は集客の面で苦戦しがちです。今後は、広報をもっと工夫していく必要があると感じています。

公益財団法人川崎市文化財団（川崎市アートセンター）

〒215-0004 川崎市麻生区万福寺 6-7-1

Tel: 044-955-0107 URL: <http://kac-cinema.jp/>

12 たからづか能

公益財団法人宝塚市文化財団（宝塚ソリオホール）

助成金額 400千円

活動概要

宝塚市文化財団は、地域文化の創造および発展に寄与することを目的に、1994年に設立。宝塚市内の3箇所の文化施設を運営している。

「たからづか能」は、2002年より開催。一定期間ごとにテーマを設けており、2012年度からは「兵庫ゆかりの能楽上演」を設定し、兵庫県に関連する能を選出、上演している。

2014年は高砂市にゆかりのある能「高砂」を宝塚ソリオホール（兵庫県宝塚市）にて1回上演。関連企画として、演目の舞台である高砂市ならびに周辺地域の歴史に関する講座の開催や、公演当日の会場ロビーに「高砂」に登場する松にちなんだ松の盆栽と「高砂」の詞章を書いた書道の作品を展示した。

また、公演前日には特設能舞台にて「はじめてのお能体験」を実施。面を実際につける体験や、能楽師の指導のもと、すり足などの能の所作や謡を体験できる機会を設けた。

助成を受けて

私たちが拠点とする宝塚市には能楽堂はありませんが、「たからづか能」を継続して行ってきたことで、地元で年に一度は能が鑑賞できるという認識が定着してきました。ホールに仮設の能舞台を設営するには費用が多くかかり、他の自主事業と比べるとどうしても赤字が大きくなってしまいます。「たからづか能」については、2009年より6年にわたって助成を受けており、そのおかげでチケットを安価に抑えつつ、毎年実施することができています。

2012年度より「兵庫ゆかりの能楽」をテーマに上演していることにより、県下市外の方も多く来場されるようになりました。他市の団体からの反応も大きく、商工会議所からの団体鑑賞の申し込みや、教育委員会からは「同じ企画を行いたい」といった企画転用の依頼、観光協会からはロビー展示への協力などをいただき、様々な関わりを得ることができました。これまでは、他市の団体とのつながりはあまり密ではありませんでしたが、「地域の文化振興」という趣旨で県下各地にも目を向けたことにより、市外にも関係を広げることができました。

初心者にも親しめるよう出演者による解説などを実施していますが、アンケートには、いつも「難しかった」「分からなかった」という声があります。よき能鑑賞の入り口となるよう、実施方法についてはこれからも工夫をしていきたいと思っています。

また、来場者はリタイア層が中心です。若年層にも来て欲しいのですがまだうまくPRできていません。若年層については公演内容を問わず、まずはホールに来てもらうことから始めて、将来的に古典芸能における客層の拡大を目指したいと考えています。



▲はじめてのお能体験



▲平成26年度上演「高砂」

公益財団法人宝塚市文化財団（宝塚ソリオホール）

〒665-0845 兵庫県宝塚市栄町2-1-1 ソリオ1・3F

Tel: 0797-85-8844 URL: <http://takarazuka-c.jp>

13 「コレクション・クッキング 近くを視ること／遠くに想いを馳せること—対話と創造」

福島県立美術館

助成金額 3,000千円

活動概要

福島県立美術館は、すぐれた美術作品に触れることで人々の感受性を高めることなどを目的として、1984年に設立。収蔵作品の柱は、アンドリュー・ワイエスなどのアメリカ・リアリズム絵画や、福島県出身の画家・関根正二を中心とした大正期の美術などである。

1999年より移動美術館を開始。2003年からは学校連携協同ワークショップなど、地域と連携した教育普及活動にも力を入れている。

本展は、開館30周年を迎えたことを記念して企画された展覧会。2014年7月19日から9月15日まで51日間開催し、177点の作品を出品した。展示構成は、福島県出身の作家3名と1グループが、美術館収蔵作品からそれぞれの視点で作品を選び、自身の作品とコラボレーションするという形式。美術館収蔵作品を作り手の視点から料理してもらおうという趣旨から「コレクション・クッキング」というタイトルとした。

助成を受けて

展覧会タイトルに含まれている「対話」とは、福島県立美術館の収蔵作品との対話を意味します。それは近代美術との対話であり、福島との対話でもあります。過去の文化的な記憶に想いを馳せ、それらと丁寧に対話を重ねることは、今という時代や社会、そして自分自身を相対的に見つめ返す行為であり、創造の出発点になると考えました。収蔵作品は、美術館側の私たちにとってはよく知っているものですが、本展によって意外な魅力を発見したり、これまでとは違った見せ方ができたり、新しい面を発見することができました。

本展は、地域の方に「私たちの美術館」という意識を持ってもらうことも目的としており、展覧会や6回のワークショップによって、多くの地域住民、学生に参加してもらえるように工夫をしました。地域の小学校への広報や、回覧板を通じた地域住民への情報提供など、地域密着のアプローチにもトライしました。助成によって、高校生以下の入場料を無料とすることができたため、子供たちも多く来館し、観覧者数1291人の1/4が高校生以下という結果となりました。このように多様なネットワークと連携することで、新たな可能性を生み出すという感触が得られました。

一方、美術館コレクションの楽しみ方、活用方法をみんなで考え展開する方向性は今後も重要だろうと実感しています。今後の展開には、人材の配置や、ノウハウの蓄積、ネットワークの構築などが必要であると考えています。

福島県立美術館

〒960-8003 福島県福島市森合字西養1番地

Tel: 024-531-5511 URL: <http://www.art-museum.fks.ed.jp>



▲出品作家、三瓶光夫氏によるワークショップ
 「メディウムはがし刷り版画体験」
 2014年8月31日、福島県立美術館実習室



▲出品作家、高野正見氏の展示風景「明るい部屋」
 福島県立美術館企画展示室

14 第11回里山アート展

特定非営利活動法人コスモ夢舞台

助成金額 300千円

活動概要

コスモ夢舞台は、少子高齢化の進む過疎社会と都市との交流を促進することなどを目的として2005年に設立。まちづくりの推進や文化芸術の振興、子供の健全育成などの活動を行っている。

里山アート展は、新潟県の稲刈りの終わった田んぼに作品を並べるユニークな美術展で、2004年より開催。新潟大学の学生や地元の青年団との協力関係も年々深まり、来場者数も増加。過疎化が進む集落に、新潟の自然とアートを軸とした人々の交流が定着しつつある。

2014年のテーマは、「アートと生活 誰でも楽しみ、挑戦する」。新潟県東蒲原郡阿賀町豊実の田んぼの周辺を会場とし、10月4日から26日までの23日間開催。プロ・アマを問わない自由参加で、出品数は39点。入場者数は約600名。



▲作品「猫」



▲「雲外蒼天」の展示設営

助成を受けて

本活動を継続して行ってきたため、ねらいとしている過疎社会と都市との交流も増え、過疎の集落に人の出入りが多くなってきています。またアート展の会場周辺の環境も整備され、景観もよくなりました。

一般の美術展と異なり会場は屋外ですので、田んぼ周辺の草刈作業が必要です。大変な作業ではありますが、夏の間に地元の人や学生の協力を得て行っています。各作品の搬入は9月初旬から開始し、約1カ月かけて会場を設営します。作品を見学するための周遊回路は、作品参加する障がい者グループに配慮して、車椅子でも安全に通れるように補修をしています。

振り返ってみると、このアート展をはじめたころは、地元の人になかなか趣旨を理解してもらえませんでした。また開催場所が稲刈りの終わった田んぼということもあり、参加できるプロ作家が限定され作品を集めることにも苦労しました。

しかし、継続していくうちに地元の後援企業や協賛企業も安定的に応援して下さるようになり、地元でも作品づくりに参加する人が増えてきました。地元の小学校児童による作品参加は、学校の年間行事のひとつに定着しました。これによって、保護者などの見学者が増え、地域社会に新しい人の流れと交流の機会ができました。また、福島県郡山市や新潟市十日町の障がい者グループの作品参加も続き、地域住民との交流もはじまっています。

今後は、だれもが参加できる楽しいワークショップの開催なども検討してみたいと考えています。

特定非営利活動法人コスモ夢舞台

〒959-4304 新潟県東蒲原郡阿賀町豊実乙 1036

Tel: 0254-96-2003 URL: <http://www.cosmoyume.com>

15 高知コンサートグループ 創立 50 周年記念演奏会

高知コンサートグループ

助成金額 200 千円

活動概要

高知コンサートグループは、高知県内で 1964 年の設立以来、活動しているクラシック音楽の団体。ピアノ、声楽、管弦打、作曲、邦楽の各部門を有している。

活動は会員による定期演奏会のほか、毎年 5 月に若い音楽家を県民に紹介する「高知県新人演奏会」や、会員の研鑽の場として年 2 回のミニコンサートを実施し、無料で一般公開している。

当演奏会は団体創立 50 周年を記念し、高知県立県民文化ホール（高知市）において 2014 年 5 月 11 日に実施（実施回数 1 回）。プログラムは、創立会員によるステージ（2 曲）、邦楽（1 曲）、ピアノ（4 曲）、声楽・管弦打（7 曲）。出演者の総数は 59 名。



▲創立 50 周年記念演奏会の模様

助成を受けて

当演奏会を開催するにあたっては多額の経費が必要でしたが、入場料を手頃な金額に設定したいという希望があり、初めて芸術文化振興基金助成事業に応募しました。入場料を 1,000 円という安価に設定できたこと、そして 50 周年の記念ということもあり、私たちの演奏会では過去最高となる 1,300 人近いお客様にご来場いただきました。

近年、定期演奏会を開催しても入場者数は伸び悩んでいました。そこで今回は、当演奏会開催の 1 年半前に実行委員会を立ち上げ、高知県内で「カウントダウンコンサート」という名称で大小 12 件の演奏会を実施し、宣伝に努めました。また、当演奏会の入場者の目標を設定し、各会員が協力して、多くの方にご来場いただけるように集客の努力をしました。

全てのステージがおおむね好評でしたが、声楽・管弦打合同のオペラ重唱ステージについては多くの再演を希望するご意見をいただきました。

当団体は、会員数が 100 名を超えており、部門も多岐にわたります。バラエティに富んだ盛大な演奏が可能となるなど、よい面もありますが、一方で演奏会の内容を検討する段階でさまざまな意見が出るなど、とりまとめる苦労もありました。しかし、演奏会は盛況となり、県民の方々に私たちの長きにわたる活動を再認識していただいたり、新たに知っていただいたりする機会になったと感じています。

今後も、多くの県民の方々に良質の生のクラシック音楽を聴いていただけるように研鑽にはげみ、新しい企画なども実施していきたいと考えています。

高知コンサートグループ

〒780-0983 高知県高知市中久万 506-2

Tel: 088-872-8280 URL: <https://sites.google.com/site/kochiconcertgroup/>

16 フィールドワーク桐生プロジェクト

ファッションタウン桐生推進協議会

助成金額 1,200千円

活動概要

ファッションタウン桐生推進協議会は、産・官・民という多様なメンバーによって構成された組織として1997年に設立。生活文化委員会、産業活性化委員会、まちづくり委員会、FT ネット委員会、未来創生委員会からなる体制で、地域産業のグローバルな発展を図りつつ、地域が有する伝統、歴史、自然環境などの資源と融合しながら、内発的で個性的なまちづくりを推進している。

フィールドワーク桐生プロジェクトでは、行政、まちづくり団体、住民による歴史的まちづくりの合意形成と協働を目的として、以下の5つの活動を実施。(1) 群馬県桐生市の重要伝統的建造物群保存地区（「重伝建地区」）とその周辺の文化財についての聞き取り調査や研究会、講演会の実施。(2) 調査研究成果をリーフレットや小冊子として発行し、住民に無料配布。(3) 重伝建地区の空き家などの片付け作業の指導。(4) 修景修復工事のために設営した古材や調度品の保存を行う古材バンクの運営。(5) かつてこの地域に滞在した渡辺華山（江戸後期の画家・思想家）の足跡をたどるツアーの実施とまち歩きのためのマップの作成。

実施期間は、2014年6月1日から2015年3月31日。実施場所は、国指定重要文化財彦部家住宅、桐生新町重伝建地区、桐生市内の歴史的風致維持向上地区。



▲ボランティアによる旧織物工場の清掃作業の様子



▲国指定重要文化財彦部家住宅でおこなわれた研究成果の報告会

助成を受けて

これまで3年間助成を受けており、地域での聞き取り調査や実測調査を行ってきました。その成果として桐生の重伝建地区の特徴や具体的な物件例を紹介した「桐生新町デザイン集」や「桐生新町織物産業史近代建築図」などのリーフレットを刊行。それらを重伝建地区の住民に対して、当該地区の重要性を理解してもらうために配布してきました。芸術文化振興基金助成事業への応募のきっかけは、重伝建地区に住む方々とともに「町並み」について考える研究会を立ち上げたいと考えたことでした。

この地域では、伝統的な家屋の所有者が高齢化してきています。このためボランティアの協力を得て、家の清掃・除草作業を行いました。20名くらいで片付けを行うと短時間で作業が終わりました。所有者の負担を軽減できる上、当プロジェクトの会員にとっては達成感が味わえる、お互いメリットのある作業でした。また、重伝建地区とその周辺の文化財についての聞き取り調査は、20軒ほど実施しましたが、話を聞いていく中で、その家のルーツがわかったり、これまでにはない資料を発見できたりしました。

このように継続して活動を行ってきたこともあり、数年前よりもまちの人々に歴史まちづくりの意識が高まってきたように感じています。今後は、市内の歴史研究団体やまちづくり団体と連携して、歴史的な事実を整理していきたいと考えています。

ファッションタウン桐生推進協議会

〒376-0023 群馬県桐生市錦町 3-1-25 桐生商工会議所

Tel: 0277-45-1201 URL: <http://www.kiryuucci.or.jp/FTnet/>

17 第42回相模人形芝居大会

相模人形芝居連合会

助成金額 300千円

活動概要

相模人形芝居連合会は、相模人形芝居の保護・育成を図るための適切な方策を講じ、その保存に寄与することを目的に1971年に設立された。

相模人形芝居は、三人遣いと鉄砲差しという独特の操法を特徴とし、現在は神奈川県内で活動する5座（下中座、長谷座、林座、前鳥座、足柄座）のみがそれを継承している。

相模人形芝居大会は、普段はそれぞれの地元で活動を行っている5座が一堂に会するもので、日頃の活動の成果を披露するとともに、郷土芸能の保存伝承及び普及啓発を図ることを目的として開催している。

第42回は、2015年2月14日に南足柄市文化会館（神奈川県南足柄市）にて開催（実施回数1回）。公演だけでなく、公演の合間に出演団体が人形芝居教室を実施したり、休憩時間にロビーサービスを行うなど、人形に触れる機会も設けた。

助成を受けて

相模人形芝居の特徴は、文楽と同様に一体の人形を主遣い、左遣い、足遣いの三人が協力して息を合わせて操る「三人遣い」と、人形のカシラ（頭の部分）を操作するときに、まるで鉄砲を構えたような格好になる「鉄砲差し」と呼ばれる独特の操法にあります。

大会は毎年開催していますが、収入は県の負担金と各座の負担金のみで、舞台の設営料やチラシの印刷費など、大会の経費を賄うことに苦慮しています。助成を受けることによって、舞台設営のための十分なスタッフを確保でき、各座員が公演に集中できる体制をつくることができました。

9年ぶりの南足柄市での公演で、今回の会場は、これまでの会場と比べて周辺人口が少なく、地の利がよいとは言えない場所でした。そこで集客のために過去の来場者へのダイレクトメールの送付や、タウン誌への公演情報掲載などを行うなど、多くのお客様にご覧いただけるように努力をしました。

その結果、近隣地域の方々が多く来場されるとともに、相模人形芝居の伝承団体が存在しない県東部や県外の方も来場され、盛会となりました。

私たちは相模人形芝居を未来に継承していくために、新たな後継者育成にも力を入れています。今後も大会を開催し続けるとともに、どうすれば来場していただいた観客から後継者になっていただける方が出てくるようになるか、ということについても掘り下げて考えていかななくてはならないと感じています。



▲箱根霊験記 瀧の段



▲箱根霊験記 瀧の段

相模人形芝居連合会

〒250-0192 神奈川県南足柄市関本 440 南足柄市市民部文化スポーツ課内
Tel: 0465-73-8062

18 クテ打組紐技法の継承活動—講習会の実施

クテ打組紐技法研究会

助成金額 500千円

活動概要

クテ打組紐技術研究会は技法を復元した木下雅子により、2006年に設立。クテ打組紐技法とは、いわゆる伝統組紐のように台やおもりを用いず、輪になった糸端を指や手で左右に交換しながら紐を組む古来の技法。正倉院御物をはじめ甲冑や仏教荘厳具などに広く確認され、出土品からその起源は古墳時代にさかのぼると考えられている。

歴史的にも貴重な技術であるが、現在では継承が途絶えており、一般の認知度も低い。2009年より継続して助成を受けており、技法の解説のためのテキストや動画(DVD)の作成・配布、及びそれを使った講習会を実施。2014年も引き続き、指導者・技術者の養成や一般への普及活動を実施。

2014年9月から2015年2月まで、クテ打組紐技法の講習会(参加体験型学習)を11回実施。開催場所は、大崎市中央公民館(宮城県)、会津若松市會津稽古堂(福島県)、新潟県立歴史博物館(新潟県)、市川市立市川歴史博物館(千葉県)、福岡県立九州歴史資料館(福岡県)、宮古島市働く婦人の家(沖縄県)の6箇所。講習会参加人数は157名。



▲講習会風景(会津若松市會津稽古堂)



▲講習会風景(宮古島市働く婦人の家)

助成を受けて

過去に助成を受けた活動で作成したテキストやDVDを活用して、全国各地で講習会を開き、クテ打組紐技法の継承活動を行いました。テキストについては、技法習得の体験をもとに、できるだけわかりやすいものになるよう努力し、推敲を重ねたものです。テキストはDVDとともに国公立大学図書館、国立及び都道府県立図書館、博物館、教育センターなどに配布し、広く一般に公開しています。

講習会を開催する施設を選ぶ際は、生涯学習活動を積極的に行っている施設に呼びかけるようにしました。生涯学習のプログラムとして受け入れてもらえた要因には、いろいろあると思いますが、準備する道具が少なく、身近な材料で習得可能であったことも大きいと思います。

テキストだけではわかりづらい点も、講習会では実際に手を動かして、物を作る楽しさを体験しつつ技法を習得し、併せて歴史的認識を深めてもらうことができました。また操作のコツを伝えることもできました。今後も技法の伝承を行ってもらえる機関やボランティアグループの方々が存在することを確信できました。こうした活動は、私たちの研究会の予算だけではできないことで、助成金があったからこそなしたと感じています。

一度は絶え、復元されたクテ打組紐技法の存在と内容を以前よりも周知することができましたが、検証すべきことはまだまだたくさんあります。これからも地道に復元や伝承に取り組んでいきたいと思っています。

クテ打組紐技法研究会

〒631-0078 奈良県奈良市富雄元町 4-4-30 小村真理気付

Tel: 0742-43-5652

19 山形交響楽団 定期演奏会 (第 236 回～第 243 回)

公益社団法人山形交響楽協会

助成金額 20,800 千円

活動概要

山形交響楽協会は、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上に必要な事業を行い、山形県内における文化と教育の振興に寄与することを目的とし、1972年に設立。東北では初めてのプロフェッショナル・オーケストラである山形交響楽団の運営、演奏会及び音楽教室の開催などを行っている。山形交響楽団の演奏活動範囲は、山形県にとどまらず、東北6県、新潟県、東京へと広がっている。

2014年度の定期演奏会は、山形テルサホール（山形県山形市）において2014年4月から2015年3月までの8回（各2公演、合計16公演）開催。古典からロマン派を経て、現代音楽まで、新たなレパートリーを加えながら、クラシック音楽とオーケストラ演奏の魅力を聴衆に提供した。

また、小中高中生にオーケストラへの興味をもってもらうことを目的として、演奏会場である山形テルサと協力して「おんがくの森」と題するレクチャー付きのリハーサル見学会を3回実施した。

助成を受けて

山形交響楽団は、創立43年を迎えました。2014年度の定期演奏会では、上演作品、招聘アーティストの選定などにおいて挑戦的な企画構成を行いたいと考えていました。一般的に認知度が高くないがオーケストラの演奏史のなかでは避けて通れない重要な曲というものがあります。集客という点からみると厳しくなることが予想されますが、そうした曲をとりあげたいと考えていたのです。また、東日本大震災以来、演奏会に足を運ぶ観客の数は減少しているという現実もありました。こうした状況のなかでこれまで温めていた企画を実現したいと考え、助成金の申請を行いました。

採択していただくということは、日本の芸術文化を牽引する活動として期待されているということであり、楽団の誇りとなりました。また申請作業などを通して、楽団の長期ビジョンを策定するよい契機にもなりました。

今回の演奏会では、地元の聴衆になじみのない作曲家、作品を取り上げましたが、来場者の反応は良好でした。この結果から「演奏機会が希少な作品との出会い」というニーズを喚起することの重要性を確信しました。

山形県では人口の減少が深刻化しています。こうした状況のなか、聴衆を増やしていくためには、新たな手法が必要であると感じています。今後も、企画力、演奏力を向上させながら、新鮮な感動を観客に届けたいと思います。



▲第 239 回定期演奏会



▲第 242 回定期演奏会

公益社団法人山形交響楽協会

〒990-0042 山形県山形市七日町 3-1-23

Tel: 023-625-2203 URL: <http://www.yamakyoo.or.jp/>

20 TOKYO CITY BALLET LIVE 2015

一般社団法人東京シティ・バレエ団

助成金額 12,400 千円

活動概要

東京シティ・バレエ団は、舞踊の創造や上演、人材育成、普及活動などを行うことによって豊かな社会づくりに貢献し、文化芸術の振興に寄与することを目的に1968年に設立。古典バレエと創作バレエを両輪とした自主公演を開催するほか、韓国や中国などの海外でも公演などを行っている。

また1994年に東京都江東区と芸術提携を結び、区内の小学校へのアウトリーチ活動も行っている。

当公演では、ヨーロッパで活躍する振付家のレオ・ムジックと、東京シティ・バレエ団の3人の振付家がそれぞれ1作品ずつ振付を担当し4作品を上演。プログラムは、日本とヨーロッパの作品を並べることで、日本の作品の素晴らしさも感じられるように構成。2015年2月にティアラこうとう（東京都江東区）において2日間で2回公演を行った。入場者数は約1,300名。



▲「ボレロ」振付 石井清子（撮影：鹿摩隆司）

助成を受けて

自主公演では、経済性を重視するため、新しい挑戦がなかなかできないのですが、助成を受けることができたため、振付家のレオ・ムジック氏を海外から招聘して新作を作るなど、さまざまなチャレンジができました。クラシックを基にしたレオ・ムジック氏の振付は、ダンサーをこれまで以上にしなやかに力強くし、語る身体を創り上げました。

この新作では、日本のバレエではほとんど使用しない本物のシャンデリアを舞台上に吊したり、黒幕を引き落としたりするなど、独特の演出を行いました。助成によって予算もありましたので、その効果を最大限に発揮するために照明の調整にも時間をかけることができました。また、若い観客が劇場に足を運びやすいように学生席を設けました。

結果として、芸術性の高い作品を上演することができ、出演者の技芸も向上しました。クラシックバレエダンサーが踊るコンテンポラリーダンスを観客に届けることができましたし、さまざまな作品を上演している当団のチャレンジ精神と振付家が育つ土壌をもっていることの強みもアピールできたと思います。

世界からみると、日本のバレエ芸術は独特の方法で発展してきました。海外で評価の高い作品が当団に合っているとは限りません。国内外を問わず、優れた振付家の作品と古典バレエの名作を上演することで、日本の観客に日本のバレエの素晴らしさを伝えていきたいと考えています。



▲「死と乙女」振付 レオ・ムジック（撮影：鹿摩隆司）

一般社団法人東京シティ・バレエ団

〒135-0002 東京都江東区住吉 1-9-8 江東区児童会館内

Tel: 03-5638-2720 URL: <http://www.tokycityballet.org/>

21 penalty killing

風琴工房

助成金額 5,700千円

活動概要

風琴工房は社会の現況とあるべき姿を演劇という手法で徹底的に分析し、物語のかたちで提示していくことを目的とし、1993年に設立。自殺者が増加している現代社会では「いかに生きればよいか」ということが不明瞭になっていると考え、「生き方のモデル」「希望のモデル」を提示することを意識した演劇活動を行っている。

演劇作品「penalty killing」は、2015年2月にズナリ（東京都世田谷区）において7日間で11回上演。タイトルとなっている penalty killing は、アイスホッケー用語で、試合中のペナルティによって自分のチームの選手が退場し、相手チームより人数が少ない状況で戦うことを意味する。作品は、プロの弱小アイスホッケーチームの奮闘を描いた物語。生きることの喜びを演劇という手法で描き出すことで、現代を生きる観客に勇気を与えるとともに、現状の打開策を提示した。



▲ penalty killing



▲ penalty killing

助成を受けて

本公演では、アイスホッケーを舞台で行うという史上初の演劇表現に挑戦しました。助成を受けられたことで早い段階から稽古場で回転舞台を使用することが可能となり、時間をかけてトライアルを繰り返しました。リスクの大きいダイナミックな表現についても検討を重ね、ブラッシュアップをすることができました。

アイスホッケーという題材を演劇にするという点については苦労も多くありましたが、上演してみると観客からの支持も高く、追加公演を行うほどの盛況となりました。公演前には集客のために、アイスアリーナでチラシを配り、公演に来ていただいたお客様にキャッシュバックサービスを行うなどの工夫をしました。このサービスは、多くの方が利用していました。

本公演を通して、日頃演劇を見ないアイスホッケーファンを演劇に引き込むことに成功し、また演劇を楽しんだお客様がアイスホッケーの魅力に触れ、実際に観戦してみたいという声も多くなりました。

公演終了後は、モデルとなったアイスホッケーチームのある栃木県の日光から公演のオファーがありました。演劇のフィールドに留まらない活動をしたいと考えてきましたので、長年の目標に一歩近づいたと感じています。

本公演を通して、演劇が果たせる可能性には、まだ更に広い余地があるということを改めて感じました。これからも新しい可能性に挑戦していきたいと感じています。

風琴工房

〒165-0027 東京都中野区野方 6-50-10 MT 野方 307

Tel: 03-5356-6142 URL: <http://windyharp.org/>

22 第12回 ユネスコ記念能

公益社団法人能楽協会

助成金額 700千円

活動概要

能楽協会は能楽の伝統と秩序を維持し、文化芸術の発展に寄与することを目的に1945年に設立。会員能楽師の芸能活動の推進、人材育成、活動条件の改善および地位の向上に努めることや、実演に係る権利擁護や能楽実演データを正しく保存するための活動などを行っている。

本公演は、若手を中心とした各流の実力者を中心に、流派の違いが楽しめる立合形式の企画で構成。シテ方五流（観世流、金春流、宝生流、金剛流、喜多流）の能楽師が出演。各年代を代表する実力者が同じ曲を順番に舞うというこれまでにない新しい企画“年代別競演”と、若手演者による“相舞競演”という2つのテーマで2014年11月27日に宝生能楽堂（東京都文京区）において1回（2部構成）実施。



▲「大瓶狸々」シテ 梅若紀彰

助成を受けて

能楽師のシテ方は、平素はそれぞれの流派にわかれて公演を行っており、シテ方五流が総出演するという公演はあまりありません。こうした企画は当協会だからこそできるもので、能楽愛好者の関心を集める企画であり、また初心者にとっても楽しめる内容であったと思います。

今回の2つの企画は、演者同士が刺激し合うスタイルでしたので、能楽師にとってはよき研鑽の場になったようです。公演当日は、今後の能楽鑑賞に役立つようにシテ方五流について解説した資料を来場者全員に配布しました。

助成を受けることで、チケット価格を低く抑えることができ、ふだんは捻出がむずかしい広報費も確保できました。新しい観客を取り入れたいと考え、雑誌などの印刷媒体はもとより、インターネット情報サイトなど、若手演者と同年代の方々が興味を持てるようなツールを使って広報活動を行いました。

これからもシテ方五流が総出演する企画はやっていきたいと考えていますが、演者が揃う日程の確保が難しく、平日にならざるを得ません。魅力的な企画であっても、平日の公演では働く方や若い方などが足を運びづらくなってしまうため、今回の公演では夜の部を19時開演にして働く方へ配慮しました。しかし、能楽堂の使用時間の制約などもあり、上演する演目が限られてしまうなどの課題がありました。今後はそうした課題の解決策をさぐりながら、当協会ならではの企画を検討し、様々な感覚を取り入れながら、能楽界を支えてくださる観客の確保を目指していきたいと思っています。



▲「邯鄲」シテ 山井綱雄

公益社団法人能楽協会

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-40-13 双秀ビル 2階

Tel: 03-5925-3871 URL: <http://www.nohgaku.or.jp/>

23 第45回 漫才大会

一般社団法人漫才協会

助成金額 2,400千円

活動概要

漫才協会は、1935年前身である帝都万才組合として発足し、2005年法人化、東京（江戸）の漫才の伝統と芸風を保存させるとともに、資質の向上、若手の育成を図ることを目的として活動している。

漫才大会は1年に1回開催する公演で、キャリアの浅い若手を除いた協会会員が総出演し、各自のネタを披露している。新人には飛躍のきっかけとなり、ベテランにとってはその健在を示す機会となっている。

2014年は、11月28日に浅草公会堂（東京都台東区）にて、2回公演。内海桂子、青空球児・好児、昭和こいる、おぼん・こぼんなどをはじめ、64組が出演。



▲おぼん・こぼん

助成を受けて

私たちの団体は、発足以来長い歴史のなかで東京漫才を向上させるために活動してきました。次代を担う若手芸人の教育には、師匠やベテランが指導にあたるなどして、会員それぞれが感性を磨き、教養、品位などレベルの高い漫才を目指して、東京漫才の発展のために努力しています。

漫才協会としての定席は、浅草東洋館（東京都台東区）での公演です。営業的な視点で見ると、知名度のある漫才師を多く出演させればいいのですが、それでは若手が勉強する機会をつくれませんので、若手育成を目的とした時間を確保するようにしています。

1年の総決算にあたる漫才大会は、45回目となりました。浅草公会堂（客席数1,082）というキャパシティが大きく、また知名度の高い劇場で公演ができるのは、助成金のおかげです。この公演に来られるお客様は、その多くが常連さんです。このため得意なネタを増やして、飽きさせないよう努めています。公演に来られた方が、舞台を見て笑う時間を持ち、「本当に楽しかった、また来るからね」と言って帰ってもらうことは、とても励みになりますし、大切なことだと感じています。

一方、漫才公演を見たことがない人は、世の中にはたくさんいると思います。そういう人たちに、公演を見てもらうための工夫が必要であると感じています。そのために漫才の公演を行える場を開拓すべきであり、今後は、東京周辺での公演活動についても検討していきたいと考えています。



▲青空球児・好児

一般社団法人漫才協会

〒111-0035 東京都台東区西浅草 2-1-2 マチダビル 2F

Tel: 03-5828-5030 URL: <http://www.manzaiyokai.org/>

25 妻の病 —レビー小体型認知症—

有限会社いせフィルム

助成金額 5,890 千円

活動概要

いせフィルムは、映画やテレビ番組などの映像の企画制作および上映、配給を行うことを目的に 2001 年に設立。ミニシアターおよび自主上映会での上映は、長年の上映活動の蓄積によりネットワークができ、全国各地に定着している。

本作は認知症の理解を深めるために制作されたもので、レビー小体型認知症の妻と小児科医の夫との 10 年間にわたる認知症闘病の様子を描いたヒューマンドキュメンタリー映画。認知症の人々を「何もわからない、できない人」ではなく、「本人なりの思いや願いがあり、できる力を秘めている人」ととらえ、その生きる姿勢を映像で伝えている。

レビー小体型認知症は、老年期に発症する認知症のひとつで、アルツハイマー型認知症について多い病気。レビー小体とは、神経細胞にできる特殊なたんぱく質のこと。レビー小体型認知症では、レビー小体が脳の脳皮質や脳幹にたくさん集まってしまうことにより、神経が上手く伝わらなくなり、認知症の症状が起こる。

準備・撮影は 2011 年 1 月より 2 年間、編集・仕上げは 2013 年 10 月より 2014 年 9 月まで。完成試写は 2014 年 10 月。上映時間 87 分。



▲寄り添い歩く主人公の石本夫妻



▲誕生日を祝う主人公の石本夫妻

助成を受けて

ドキュメンタリー映画の製作は、予定どおりに進まないことも多く、どうしても撮影に長い時間がかかってしまいます。このため、その期間の資金をどのように捻出するかは大きな課題です。製作をバックアップしてくれる助成の存在はとてもありがたく、助成金を含めた資金をいかに有効に生かすかについては工夫をしました。

この映画は、自主上映活動を中心として公開しました。映画を創り観てもらい、という活動を通じて、テレビ等マスメディアの媒体とはひと味もふた味も違う、よいコミュニケーションの場を作り出すことができます。今回も、完成した一本の映画を通じて、われわれ製作者が様々な人々との出会いを経験するとともに、観客にもそういった場を提供できたと思っています。

今後は、劇場上映、自主上映、映画祭上映などさまざまな方法で上映活動を展開することにより、さらに製作活動の内容を深めていきたいと考えています。

有限会社いせフィルム

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-3-7 青山 N-ブリックビル 3F

Tel: 03-3406-9455 URL: <http://www.isefilm.com>

26 花とアリス殺人事件

株式会社スティーブンスティーブン

助成金額 21,000千円

活動概要

スティーブンスティーブンは、映像を中心としたコミュニケーション手法により、生活者、企業や社会の課題解決を行うことを目的として2011年に設立。映像の役割が多様化していくなかで「人々を幸せにするための映像」とは何かを追求し、人のそばに寄り添い、毎日の生活に潤いをもたらすような映像づくりを目指している。

本作は映画監督・岩井俊二による新作で、『花とアリス』(2004年)の前日譚を描く劇場用長編アニメーション。製作手法に特徴があり、3DCG(3次元コンピュータグラフィックス)セルルック(セル画で製作されたアニメのような表現を実現する手法)とロトスコープの組合せによるハイブリット技法を使っている。ロトスコープは、実写映像からアニメーションを描き起こす技法で、アニメーション製作が始まる前に、本編のほぼすべてのシーンを実写で撮影している。

実写撮影は2014年1月から3月、アニメーション製作・仕上げは2014年3月から2015年2月まで。上映時間98分。



▲栃木県の廃校になった中学校の体育館をお借りして、グリーンバックの撮影を行いました。写真は渡邊とアリスによるレストランシーンのセットアップの最中になります。



▲劇場公開時の様子

助成を受けて

本作は、3DCGセルルックとロトスコープという新しい表現手法にチャレンジするという日本アニメーション業界にとって大きな試みでした。岩井監督は長編アニメに取り組むのははじめての上、ロトスコープと3DCGセルルックの融合作業という新しい手法を今回はじめて採用したため、どちらの手法が表現として適切かなどの判断で悩む場面もありました。

アニメーション映画は、製作期間が長期にわたるため、特にコスト面のマネジメントが非常に難しいという課題があります。だれもが未知の作業のなかで製作が進められましたが、進行の遅れや内容の変更などが出てきたときに、予算内でどのように解決するかという点には苦慮しました。そういう意味でも今回の助成によって資金面を強化できたことで、岩井監督が目指した高品質なアニメーション作品を世の中に発表することができました。

本作は、新しい表現手法のチャレンジが評価され、世界最大のアニメーション映画祭「アヌシー国際アニメーション映画祭」の長編コンペティション部門にノミネートされました。残念ながら受賞は逃しましたが、実写とアニメーションの融合により、表現手法に大きな幅ができあがったという手応えを感じています。今後も、新しい概念や手法を取り入れたコンテンツを生み出していきたいと考えています。

株式会社スティーブンスティーブン

〒107-6101 東京都港区赤坂5-2-20

Tel: 03-6277-7727 URL: <http://www.stst.co.jp>

27 Birth —つむぐいのち—

CHILD POKKE

助成金額 1,380 千円

活動概要

CHILD POKKE は、若見ありさ監督の「Birth —つむぐいのち—」の製作のために、2012 年に設立。

本作は、出産をテーマにした女性監督による短編アニメーション作品。出産は、人間の数だけ異なる体験があり、たとえ医療が進歩しても時には命を落とす可能性がある。出産を体験したことの無い者にとって、それを知る機会是非常に少ないため、いのちの誕生の不思議さやつながっていくいのち、出産の現実と苦悩・喜びをより広い世代に伝えていきたいと思いアニメーションという手法を採用した。

3名の異なる体験談をもつ女性に出産体験を語ってもらい、そのひとつずつをアニメーション作家3名がそれぞれの体験談に合う手法で映像化。楽器の演奏者やタイトル制作者などのスタッフにも多くの女性が参加している。

出産の聞き取りは2014年7月から10月、絵コンテは9月、作画・撮影は9月から12月、編集・仕上げは2015年1月から2月。完成試写は2015年3月。2015年夏に公開予定。上映時間20分。

助成を受けて

本作では、3名の出産体験をとりあげましたが、取材段階では数多くの出産経験者から話をうかがいました。そのインタビューを通じて、それぞれの出産にドラマがあることを改めて感じましたし、出産についてのさまざまな知識を得ることができ、作品に生かすことができました。助成を受けたことで、出産体験のインタビューに時間をかけることができましたし、プロジェクトに関わるスタッフの志気も高まりました。

妊娠・出産にはポジティブなイメージだけではなく、ネガティブなイメージもつきまといます。しかし、それは想像や恐れによってまげられた情報の場合もあります。必ずしも良いことばかりではありませんが、この映画を通してありのままの体験談を聞いてもらうことで、間違った情報や恐怖心、受け入れる準備を取り除けたらと思っています。

今回は女性ばかりに体験を語ってもらいましたが、今後は妻が出産する際に付き添った夫の体験なども映像化してみたいと考えています。また、短編アニメーションは、上映機会が少ないので、できあがった作品を広く観てもらえるような仕組みを考えることも重要だと感じています。



▲制作の様子



▲制作の様子

CHILD POKKE

〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-27-4

Tel: 080-5425-8962

心の復興のお役に立ちたい！

芸術文化振興支援基金への
ご協力をお願いします。

絆

被災地の復興支援を目的として行われる芸術文化活動を支援するための資金として活用します。

<http://www.ntj.jac.go.jp/fukkou/1332.html> をご覧ください。

または、芸術文化振興支援基金までお問い合わせください。

TEL：03-3265-7249 / 03-3265-6302

E-mail：recovery-fund@ntj.jac.go.jp



芸術文化振興基金による助成

目的

「芸術文化振興基金」は、すべての国民が芸術文化に親しみ、自らの手で新しい文化を創造するための環境の醸成とその基盤の強化を図る観点から、芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動、その他の文化の振興又は普及を図る活動に対する援助を継続的・安定的に行うことを目的としています。

助成対象活動

◆芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造・普及活動

- オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱、バレエ、現代舞踊、演劇等舞台芸術の公演活動
- 文楽、歌舞伎、能楽、邦楽、邦舞等の伝統芸能の公開活動
- 落語、講談、浪曲、漫才、奇術等大衆芸能の公演活動
- 美術の展示活動
- 国内映画祭等の活動
- 特定の芸術分野にしばられない公演・展示活動

◆地域の文化振興を目的として行う活動

- 文化会館、美術館等の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
- 歴史的集落・町並み、文化的景観の保存・活用に直接資するセミナー等の催し物、資料収集・作成、普及啓発による保存活用活動
- 民俗文化財の公開、広域的な交流、復活・復元による伝承、記録作成による保存活用等の活動

◆文化に関する団体が行う文化の振興、普及活動

- アマチュア等の文化団体が行う公演、展示その他の文化活動
- 伝統工芸技術、文化財保存技術の保存伝承、公開活用、記録作成による保存活用活動、衰退した伝統工芸技術の復元活動

※詳細は、ホームページ <http://www.ntjjac.go.jp/kikin.html> をご覧ください。



文化芸術振興費補助金による助成

目的

国からの文化芸術振興費補助金を財源として、我が国の舞台芸術の水準を向上させる牽引力となっているトップレベルの芸術創造活動や優れた日本映画の製作活動を助成しています。

助成対象活動

◆トップレベルの芸術団体が行う舞台芸術活動

- 音楽・・・オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱等
- 舞踊・・・バレエ、現代舞踊、民族舞踊等
- 演劇・・・現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカル等
- 伝統芸能・・・古典演劇（歌舞伎、人形浄瑠璃、能楽等）、邦楽、邦舞、雅楽、声明等
- 大衆芸能・・・落語、講談、浪曲、漫才、奇術、太神楽等の公演活動

- 支援の形態には、活動毎に助成を行う公演単位支援型と、複数の公演を一括して助成する年間活動支援型があります。

◆映画製作への支援

- 劇映画、記録映画、アニメーション映画

※詳細は、ホームページ <http://www.ntj.jac.go.jp/kikin.html> をご覧ください。

日本版アーツカウンシルの試行的取組について

日本芸術文化振興会では、平成 23 年度から音楽、舞踊、平成 24 年度から演劇、伝統芸能・大衆芸能の分野について、文化芸術活動への助成に関する新しい審査・評価等の取組（日本版アーツカウンシルの取組）を行っています。その一環として、上記 4 分野にプログラムディレクター（PD）、プログラムオフィサー（PO）を配置し、その専門的知識を活かした審査、事後評価、調査研究などに取り組んでいます。

主に「トップレベルの舞台芸術創造事業」の採択団体について、活動の公演調査や事後評価などを行い、その結果のフィードバックや、改善に向けた助言を行っています。

また、基金事業についても、応募や活動の実施にあたり、アドバイスを行っています。採択団体の活動を支援するため、PDPO は活動しています。



※ PDCA サイクルとは：計画の作成、計画に沿った実行、実行の結果を目標と比べる検証、発見された課題に対する改善の 4 段階を繰り返すことで、事業の質の向上を目指す取組です。

〈振興会の実施する取組〉

Plan 計画

助成事業の実施を計画

- 助成の基本方針の策定
- 審査基準の作成・事前公表

要望書提出期間の前に、日本芸術文化振興会のホームページに採択に当たっての審査基準を公表していますので、文化芸術団体は、各助成金の目的や、活動内容に何が期待されているかを知ることができます。

Do 実行

助成事業の実施

- 募集案内の作成
- 応募相談会の開催
- 助成の対象となる活動の募集・審査・採択
- 日常的な相談・広報活動
- 文化芸術活動の実態把握
- 助成事業に必要な調査研究

音楽、舞踊、演劇、伝統芸能・大衆芸能の分野に PD 及び PO を配置し、活動の企画に当たって不明な点や、参考となる先行事例等について知りたいことがあれば、御相談に応じています。

また、助成事業に必要な情報の収集や調査研究を行っています。

Check 検証

制度の趣旨に沿った助成ができたか検証

- 助成の対象となる公演活動の実施状況の調査
- 事後評価（トップレベルのみ）

要望書記載事項のうち採択に当たって期待された事項について、企画どおり実施できたかどうか、実際の公演の状況や実績報告書等に基づき運営委員会において評価を行います。評価結果は各団体にお伝えしますので、次回の要望に向けた改善に活かしてください。現在「トップレベルの舞台芸術創造事業」について実施しています。

Action 改善

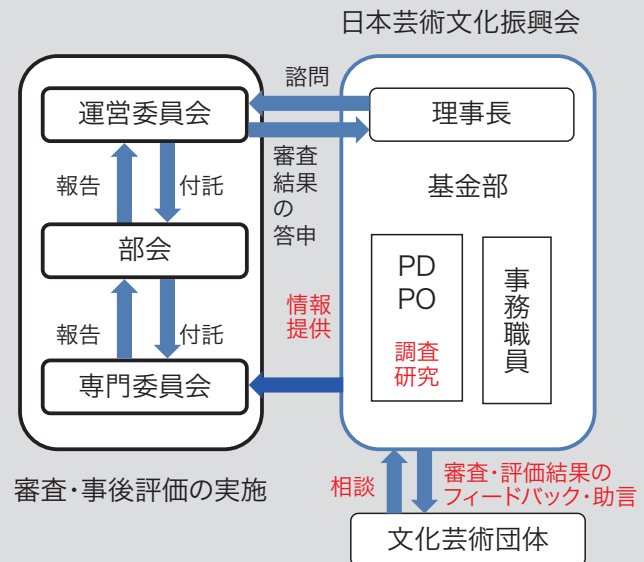
次年度に向けた改善

- 助成の基本方針・審査基準・募集案内などの見直し
- 調査研究の成果の反映

取組の実施体制

芸術文化振興基金運営委員会(※)において、助成の対象となる活動の審査・事後評価を行います。

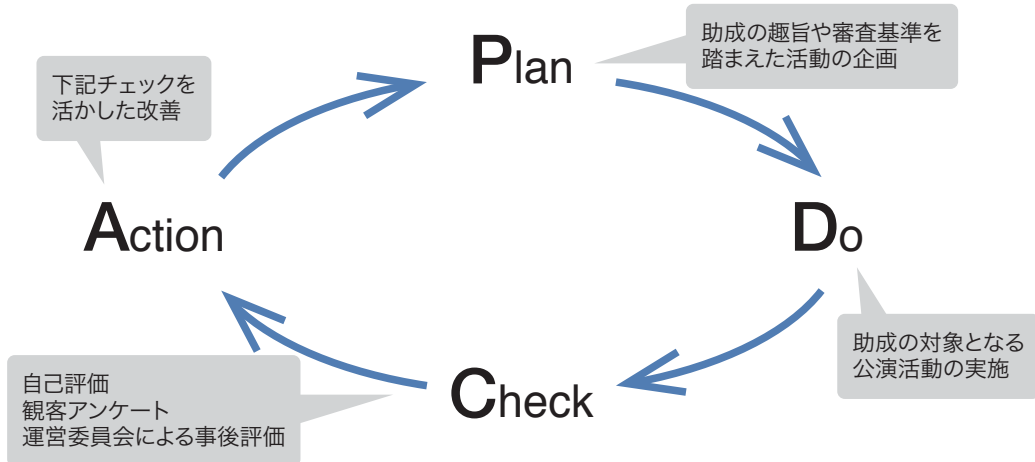
PDPOは、調査研究にもとづき運営委員会などに対して情報提供を行うとともに、審査・評価の結果を文化芸術団体にフィードバックし、助言を行います。



(※) 助成事業に係る日本芸術文化振興会理事長の諮問機関。有識者や各分野の専門家等約120人を委嘱している。

助成を受けた文化芸術団体も、団体としてのPDCAサイクルが必要です。

助成の対象となる公演活動の実施が文化庁の政策目的の実現につながったかどうかについて、文化芸術団体自らが評価を行い、運営委員会の事後評価も踏まえながら、改善を行っていくことが必要です。



文化芸術への公的支援に関する考え方は変化しています。

『文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)』では、「従来、社会的費用として捉える向きもあった文化芸術への公的支援に関する考え方を転換し、社会的必要性に基づく戦略的な投資と捉え直す。」とされ、この考え方は第4次基本方針にも引き継がれています。

このため、助成金の交付対象として採択するかどうかを判断する場合には、助成金の趣旨に沿った活動かどうかに加え、「戦略的な投資」にふさわしい「社会的必要性」を踏まえた活動計画になっているかどうかを考慮することになります。

したがって、文化芸術団体においては、助成金の要望にあたり、当該活動の展開を通じて、社会へどのような波及効果を及ぼそうとしているかを分かりやすく主張していただくことが必要になります。

詳しくはHPをご覧ください → <http://www.ntj.jac.go.jp/kikin/artscouncil.html>

芸術文化振興基金への御案内

芸術文化振興基金は、国の出資金と企業等からの寄附金を原資として創設され、我が国の芸術文化活動に助成し芸術文化の振興普及に寄与しています。

この基金の創設にあたり、その趣旨に御賛同の上、多額の御寄附をいただいた企業等は次のとおりです。御支援に深く感謝いたします。

支援企業グループ

<p>建設</p> <p>青木あすなろ建設(株) (株)安藤・間 (株)大林組 鹿島建設(株) (株)熊谷組 佐藤工業(株) 清水建設(株) 積水ハウス(株) 大成建設(株) (株)竹中工務店 戸田建設(株) 飛鳥建設(株) 西松建設(株) (株)長谷工コーポレーション (株)フジタ 前田建設工業(株)</p>	<p>昭和電工(株) 積水化学工業(株) 第一三共(株) 三菱化学(株)</p> <p>石油・鉄鋼</p> <p>出光興産(株) 新日鐵住金(株)</p> <p>機械・精密機械</p> <p>日本精工(株) HOYA(株) (株)リコー</p> <p>電気機器</p> <p>沖電気工業(株) キヤノン(株) (株)JVCケンウッド シャープ(株) ソニー(株) TDK(株) (株)東芝 日本コロムビア(株) 日本電気(株) 日本アイ・ビー・エム(株) パイオニア(株) パナソニック(株) (株)日立製作所 富士通(株) 三菱電機(株) (株)村田製作所</p> <p>輸送用機器</p> <p>トヨタ自動車(株) 日産自動車(株) 本田技研工業(株) 三菱重工業(株)</p> <p>楽器</p> <p>(株)河合楽器製作所</p>	<p>ヤマハ(株)</p> <p>印刷</p> <p>大日本印刷(株) 凸版印刷(株)</p> <p>百貨店</p> <p>(株)高島屋 (株)三越伊勢丹</p> <p>銀行</p> <p>(株)新生銀行 みずほ信託銀行(株) (株)みずほ銀行 (株)三井住友銀行 三井住友信託銀行(株) (株)三菱東京UFJ銀行 三菱UFJ信託銀行(株) (株)横浜銀行 (株)りそな銀行</p> <p>証券</p> <p>SMBC日興証券(株) SMBCフレンド証券(株) 三洋証券(株) (株)大和証券グループ本社 野村証券(株) みずほ証券(株) 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株) 山一証券(株)</p> <p>保険</p> <p>アクサ生命保険(株) 朝日生命保険相互会社 ジブラルタ生命保険(株) 住友生命保険相互会社 (株)損害保険ジャパン 第一生命保険(株) 太陽生命保険(株) 大同生命保険(株)</p>	<p>東京海上日動火災保険(株) 日本生命保険相互会社 富国生命保険相互会社 T&Dフィナンシャル生命保険(株) マニユライフ生命保険(株) 三井住友海上火災保険(株) 三井生命保険(株) 明治安田生命保険相互会社</p> <p>不動産</p> <p>住友不動産(株) 東急不動産(株) 三井不動産(株) 三菱地所(株)</p> <p>輸送</p> <p>カトーレック(株) 全日本空輸(株) 東京急行電鉄(株) 日本航空(株)</p> <p>観光</p> <p>(株)ジェイティービー 藤田観光(株)</p> <p>出版</p> <p>(株)講談社 (株)小学館</p> <p>広告</p> <p>(株)電通 (株)博報堂</p> <p>通信・電力・その他</p> <p>東京電力(株) 日本たばこ産業(株) 東日本電信電話(株) (公財)全国税理士共栄会文化財団 (平成27年5月現在、順不同)</p>
---	--	--	---

発行日 _____
平成27年10月1日

編集発行 _____
独立行政法人
日本芸術文化振興会 基金部
〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1
☎ 03-3265-6302
URL <http://www.ntjjac.go.jp/kikin.html>

